

【3】 日本が目指すべき医療制度・解答例

*日本の医療制度は「国民皆保険制度」です。この制度は国民が相互に支え合い、病や障がい、苦しむ人の負担を軽減するために、医療費を共同で負担していく制度です。日本の医療がどのような制度によって成り立っているのか。日本の医療がどのように維持されているのか。なぜこのような長寿化が可能になったのか。日本の医療を支える理念がこの制度に反映されているので、これから医学・医療の道に進む者にとっては、知っておかなければならない必須知識です。医療費の増大と制度維持の危機も論文頻出課題となっています。面接質問項目としても毎年数校で質問されており定番課題ともいえるでしょう。

(巻末参考資料 P. 78～を参照)

問1 この文章に、20 字以内で適切なタイトルをつけなさい。

解答例

自由か平等か、どちらの医療を選ぶのか

問 2 保険制度を基盤とする国々は、北欧諸国やイギリスの医療制度に近いと考えられる理由を 200 字以内で述べなさい。

解答例 1

保険とは、病気や事故などの不測の事態に対して各人が拠出した資金を原資に協同で対処する仕組みだ。この制度を基盤とする国々では、国民に資金の拠出を義務づけ、公的機関が強制的に徴収する。そして、日本の公的医療保険のように、各人の所得に応じて拠出金額を変える応能負担を原則として公平性をはかる。所得の有無や多寡にかかわらず万人に平等に提供され、国民の税金で賄われる北欧諸国やイギリスの医療制度に近くなる。

解答例 2

米国では、医療は個人が選択するサービスにすぎず、一般の商品と同様自己責任で手に入れるべきものとされるので、経済力に応じて医療の質に格差が生じる。一方、公平性を重んじる北欧やイギリスでは、医療を受けることは個々人の基本的人権に属するものとされ、社会がそれを支える。国民のほぼ全員を公的医療保険に加入させ、支払われた保険料で医療費を賄う制度も、医療を万人に平等に提供することを目的とするので後者に近い。

問 3 二つの未来像を考慮したうえで、今後日本がめざすべき医療制度について、あなたが考えることを 600 字以内で述べなさい。

解答例 1

二つの未来像とは、「持てる者と持たざる者との間が大きく分裂した社会」と「持てる者と持たざる者との間の差が縮まる社会」のことをいう。私は後者の未来像に基づいて、今後日本が目指すべき医療制度を考えたい。なぜならば、人間の命の重さは平等で、絶対に、お金の有る・なしで差別されてはならないと考えるからだ。

日本は国民皆保険制度に基づき、公平な医療の実現に努力してきた。それは世界で有数の平均寿命の高さをもたらす一因になった。この歴史的事実からも、後者の未来像の実現可能性と有効性がわかる。人間は病気になっただけでも不安になり、絶望すらする。貧しいために医療を受けられない社会では、一人ひとりの不安や絶望は大きくなり、医療本来の役割は果たせない。基本的には従来までの医療制度を、今後の日本は維持すべきだと考える。

しかし、国民皆保険制度が揺らいでいるのも事実だ。それは医療の高度化と急速な少子高齢社会の進展によって医療費が増大し、保険財源が枯渇しているからである。保険で賄いきれない分は税金でカバーする公費負担になるがこれにも限界はある。このような国民皆保険制度の危機に対応するためには、医療側の努力だけでなく、負担増の受け入れや適正な受診など患者側の努力も重要だ。「どのような社会で生きることを望むのか」という問いかけは、医療側だけでなく患者側、つまり私たち一人ひとりの生き方にも向けられている。

解答例 2

日本には国民皆保険制度があり、患者窓口負担が原則三割ですんでいる。また、高額療養費制度があり、医療費の月額が一定限度を超えるとそれ以上は公的負担になるので、特別に裕福でない人でも高度医療を受けることができる。日本はこの仕組みを堅持すべきである。米国のような社会では、一部の富裕層を除く人々は「お金が足りないので自分や家族の命を諦めなければならない」状況に陥るリスクにさらされることになる。いつ自分がそういう状況に陥るかはわからないので、人々が安心して暮らしていくためにはいざという時のための安全網が必要だ。それが私の考えるのぞましい社会のあり方である。

最近では日本でも米国流の自己責任論がもてはやされがちであるが、それは医療費が膨張し、国民皆保険が破綻するのではないかという不安があるからだ。その原因である高齢化は不可避のものであり、医療技術の進歩も止めるわけにはいかないのに、医療費を劇的に減らす方法などあるはずもないが、国民皆保険を維持するために知恵をしばるべきだ。患者一人に年間何千万も使う高度医療は保険適用から外し患者自己負担とすべきだという声もあるが、高度医療へのアクセスの公平性の維持も大切なことなので、それは最後の手段である。予防医療に力を入れる、病院と診療所、医療と介護の役割分担を明確化して医療を効率化するといった努力の積み重ねで、医療費の膨張をなんとか抑えていくしかない。